

有害大気汚染物質健康リスク評価等専門委員会（第 7 回）における
健康リスク評価に係る指摘事項及び対応

番号	御質問・御指摘内容	対応案
【共通】		
1-1	表 12 の年平均値とは、測定地点ごとの平均値なのか分かりにくい。	表の注記に「測定した地点ごとに年平均値を算出し、それらの平均値、最小値、最大値を示している。」と追記した。また、アセトアルデヒドの評価書においても同様に対応した。(塩化メチル p39、アセトアルデヒド p24)
【塩化メチル】		
2-1	優先取組物質に選定される前だが、測定されていたのであれば、表 12 にデータを追加してはどうか。	表 12 に 2008 年度データを追加した。(p39)
2-2	表 13 の地点数と検体数の関係が月 1 回の測定とすると整合していない。	2013 年度と 2016 年度について、年 12 回超の測定地点があったためであることを確認した。(p39)
2-3	図 4 の 2008 年度からの継続 10 地点は優先取組物質に選定される前から測定していた箇所であり、全体の傾向を示すデータとしては適切ではないおそれがあるのではないか。	図 4 を塩化メチルが常時監視の対象となった 2012 年度以降の継続測定地点におけるデータを対象としたグラフとした。(p39)
2-4	4.6 の曝露評価について、他経路曝露が「低い」というのは適切な表現ではないのではないか。	曝露量が少ないとの趣旨が分かるよう文章を修正した。(p45)
【アセトアルデヒド】		
3-1	曝露評価におけるアセトアルデヒドの排出量について、二次生成の寄与がより詳しく書けないか。	アセトアルデヒドは大気中で二次生成されると同時に、光化学オキシダントの原因物質となることもあるため定常状態を示すのは困難だが、既存の知見における二次生成量の推計手法を追記した。(p23)

3-2	<p>図4 モニタリング結果の経年変化について、PRTR制度による自動車からの排出量推計値が減少しているため、その結果、沿道の測定地点における測定値が小さくなっていることを示すと、対策のモチベーションとなるのでは。</p>	<p>図4に測定地点の各地点属性別のデータを追加する。なお、当該データでは沿道だけでなく一般環境、固定発生源周辺ともに減少傾向となっている。(p25)</p>
3-3	<p>表14は一般環境での評価だけでなく、全体での最大値が必要なのでは。</p>	<p>曝露量の算定について、一般環境だけでなく、高濃度曝露の可能性を示すためモニタリング調査結果の全体について、その最大値・平均値を基に算定した曝露量を記載した。また、曝露量を算出する曝露濃度も併せて記載した。(p27)</p>